

## 【 2024 年度 聖隸こども園・保育園 施設関係者評価】

園名 聖隸こども園ひかりの子

**目的**：浜松磐田地区の聖隸福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、  
お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

### 評価日・評価者

評価日 2024 年 11 月 5 日

評価者	園名	聖隸こども園わかば
役職	園長	氏名 加藤 可織

評価者	園名	聖隸こども園こうのとり東
役職	園長	氏名 平野 春江

### 【保育・教育理念】

聖隸の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

保育教育理念に基づき、職員それぞれが子どもたちを互いに見合いながら、保育を行なっている。

### 【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

乳児クラスでは、子どもたちの成長発達や動線を考えた環境設定を行なっていた。幼児クラスでは、人数が多い中、子どもたちの過ごしやすい環境を整え、保育室を分けながら過ごしていた。4・5歳児の異年齢クラスでは、各年齢の成長発達を考えながら保育を考えていくようにしている。

**【情報保護】**

個人情報の保護は適切であるか。

鍵のかかる事務所の中で個人情報に関する書類、パソコン等は適切に管理されている。

**【苦情対応】**

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

アンケートで行事のやり方等でいただいた意見に対してや日々の中で保護者からのご意見には園長や主任等で対応を行なっている。必要に応じて園内で周知をし、対応をしている。

**【保健・衛生】**

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

看護師が中心となって情報提供をし、必要に応じて園内で周知をしている。

**【安全】**

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

計画的に毎月避難訓練を実施し、園児や職員に対し防災対策を行なっている。

**【運営】**

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

修理が必要な箇所や園内の危険箇所については、速やかに園長や主任に報告がされ、修繕を行なう等適切な対応が行なわれている。また、定期的に点検も行なわれている。

### **【環境美化】**

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

園内は清潔に保たれている。3歳児クラスでは、子どもたちの塗り絵を作品として掲示し、大切に扱うようにしていた。剥がれてしまっている掲示があったため、日々の中で気をつけていく必要がある。

### **【保育室】**

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

保育室内は、子どもの発達や興味、関心に応じた環境設定、動線を考えた家具の配置がなされている。子どもの姿に合わせて職員間で話し合いをし、工夫をしている。

### **【保育内容】**

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

#### 0歳児

- ・神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・意思がしっかりと受け止められ、安心して自分らしさを出す

#### 1歳児

- ・保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

#### 2歳児

- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

#### 3歳児

- ・保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやル

ールの大切さを味わう

4歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特性を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

乳児：園庭や室内での遊びの様子、食事など一人ひとりのペースを大切にしている。子どもたち自身が生活の動線を理解し、排泄や手洗い等に自ら行く姿が見られ、落ち着いて生活をしている。

幼児：4, 5歳児の異年齢保育で各年齢の成長発達を捉えながら保育をしていくことに課題を持ちながら保育をスタートさせたとのことだったが子どもたちの様子を踏まえながら、職員間で連携を取り合い、保育を行なっている。

【全体を通して】

職員数が多い中で、園長を中心となり、職員の思いや考えを受け止めながら大きな集団をまとめている。園長と主任、主任と副主任との連携を取りながら、日々の保育について考え、見直し実践している様子が感じられた。様々な職員がいる中で、思いや考えを持ったパート職員が大切な存在であることも伺える。